

地方創生のための広域連携

副代表幹事
世界情勢調査会 委員長
小林 栄三
伊藤忠商事
取締役会長



観光庁では、複数の都道府県を跨^{またが}って、テーマ性・ストーリー性を持った魅力ある観光地をネットワーク化し、海外へ積極的に発信する「広域観光周遊ルート形成促進事業」を実施している。私は、その周遊ルート検討委員会の座長を務めており、6月17日には、公募を経て選定された七つの広域観光周遊ルートに対する認定証授与式が行われた。各地域が連携してインバウンド・プロモーションの戦略策定の動きが全国で見られたことは、今回の大きな成果であると考えている。

2020年の訪日外国人旅行者数2,000万人達成に向け、また東京オリンピック・パラリンピックの開催効果を全国に波及させるには、観光客を地方へ誘客して少しでも長く滞在してもらうことが必要である。そのためには、例えば歴史・文化、食や自然など、魅力ある観光地域をつなぐストーリーを描き、点から線、線から面へと広げることで地域全体のブランド価値を高めることが求められよう。また、今回は日本国内が対象であったが、将来的には、例えば日本からの旅行者が欧州で数カ国を巡るように、日中韓が連携して周遊ルートを形成することも面白いと思う。

私は商社の仕事について聞かれた時、いつも川の流れを示して説明している。20世紀の商社は、情報・金融・物流等の川中機能を駆使して、川上(供給)と川下(需要)をつなぐトレードが中心であったが、最近では従来の川中に加えて川上や川下にも進出することで、供給から需要までのバリューチェーン全体に関与する形で各社の独自性・強みが発揮されている。この動きの中で重要なのは各種連携であり、部分最適から全体最適への進化において不可欠となっている。

各種連携の観点で今回の広域観光周遊ルート形成を考えると、各地域において観光分野のみならず、農業、医療・介護、大学教育などあらゆる分野における連携が必要となってくるであろう。ないものねだりではなく、「あるもの探し」によって自らの持つ資産・強みを見つめ直し、そこにストーリーを描いて周辺地域の強みと融合することで、地域全体のバリューを高める。各地方自治体が今年度中に「地方版総合戦略」を策定することになっているが、自治体間の連携といった視点も極めて重要であろう。

No.780 July 2015 7 経済同友

CONTENTS	
特集	
2015年度 新副代表幹事座談会 持続可能な社会に向けて —Japan 2.0—	02
Close-up提言	
観光立国委員会【提言】 星野 佳路 委員長 観光産業を基幹産業として位置付け 「真の観光立国」実現を	13

欧州・ロシア委員会【報告書】 大八木 成男 委員長 ドイツを復活させた構造改革 日本の競争力向上に向けて 学ぶべき点は多い	
Doyukai Report	
アフリカ委員会 ミッション報告 関山 護 委員長インタビュー アフリカCEOフォーラム参加と フランス企業経営者に学ぶ	17
全国44経済同友会共催 第28回全国経済同友会セミナー 戦後70年。地域活性化で日本の再生を	
Seminar	
第1248回 会員セミナー イスラームを根底から理解する —IS、ハラール・ビジネスに惑わされない12のアラビア語— 奥田 敦 氏 慶應義塾大学総合政策学部 教授/慶應義塾 大学SFC研究所イスラーム研究・ラボ代表	21

Column	
巻頭言 小林 栄三 「地方創生のための広域連携」	01
リレートーク 西村 豊 「美しき敗者?」	22
福島に“ほんとの空”が戻る日まで ～福島大学FUREの挑戦～ 大瀬 健嗣 氏 「福島県の放射線の現状と課題」	25
私の思い出写真館 伊藤 文子 「五十歳からの社会デビュー」	26
新入会員紹介	23
外国人留学生支援へのご協力をお願い	24

今月の表紙: シリーズ国花
【ユリ/フランス】
ユリは「聖母マリア」の象徴でもあり、中世フランス王家は「フルール・ド・リス(ユリ紋章)」として紋章の意匠に取り入れました。格調高く、日本でも人気の花です。

【『経済同友』8月号は、9月号との合併号となります。9月25日に8・9月合併号として発行いたします】